

## 令和4年度（大磯高校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

課 題	目 標	実施結果と目標の達成状況
法令遵守意識の向上	教育公務員としての職責を自覚し、法令遵守意識の徹底を図ることで、公務外非行を未然に防止する。	事故・不祥事防止研修を毎月実施し、職員が輪番で提案者になるなど意識の向上に努めた。また、人権保護に係る職員の理解を深めるため、外部講師を招いてLGBTへの理解を深める研修をおこなった。
職場のハラスメントの防止	人権に配慮し、尊重した対応を身につける。	ストレスを抱える職員と管理職との面談を密にし、情報の共有に努め、職員間の融和を図った結果、職員間のコミュニケーションの向上に一定の成果を上げることができた。
わいせつ・セクハラ行為及び体罰・不適切な指導の防止	生徒の人権を尊重し、冷静に真摯な態度で指導にあたる。	配慮を必要とする複数の生徒について、スクールカウンセラーや教育相談コーディネーター、担任等との連絡と情報共有を迅速にかつ、綿密に行い、必要に応じて専門機関とも連携し、課題の解決を図ることができた。
成績処理や進路関係業務における個人情報に係る事故防止	成績処理等に係わる事故防止のための体制作りを行う。 進路関係の正確かつ適正な事務処理を徹底する。	推薦入試に関する業務については、丁寧な点検作業を徹底し、公正で適切な事務処理を行うことができた。 成績処理シートの様式を改め、信頼度の高い評価・評定が行なわれるよう、改善を行った。
入学者選抜に係る事故防止	県民に信頼される入学者選抜業務の体制の確立。	入学者選抜業務の遂行にあたっては、複数の職員による丁寧な作業を心がけ、ミスのない業務を実施することができた。
危機管理時を含む業務執行体制の確保	危機の状況に応じて適切な業務を執行する。 円滑な学校運営のため、合理的かつ前向きな業務執行体制を確立させる。	危機管理マニュアルに基づいて緊急時における参集体制を職員間で確認することができた。不審者の侵入に対する対応などの不測の事態に関するマニュアルを整備したが、事態に即した研修は実施できなかった。
財務事務等の適正執行	適正な私費の徴収・執行を行う。	部活動費の会計処理について、担当職員への指導が浸透し適切な処理を行うことができた。コロナ禍で事業が中止になったが、適切な予算の執行に努め、繰越金を適性範囲に収めることができた。

○ 令和4年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和5年度に取り組むべき課題  
(学校長意見)

様々な生徒が入学して来る時代になり、職員の人権についての意識を改め、向上させていかなければならなくなっている。100周年に向けての制服改定の検討の中でも、このような背景を踏まえた議論を進めているところである。

入学者選抜についてはマークシート方式での回答が多くなり、採点ミスの恐れは軽減してはいるが、書類の点検などではヒヤリとする場面もあった。引き続き複数職員による確認を励行し、事故を起こさない選抜業務を行っていきたい。